

○永久凍土がさらに深くなるのは次の氷期が来たときか？
→場所によって異なる。氷期に氷床が発達する地域では、氷床に覆われると冷気が氷に遮断されるため、それ以上深くならない。

○活動層よりも深い部分はなぜ常に 0°C 以下になるのか？地球の中心は暖かいのではないか？
→冬に地表面から冷却されるため。

○多角形土は毎年形が変わるのか？
→輪郭部分の幅は徐々に広がっていくが、形はあまり変わらない。

○夏に永久凍土が融けたところを歩くと、ぐちょぐちょな状態なのか？
→融ける程度にもよるが、ぬかるんでいるところが多いであろう。

○連続的永久凍土は、地下何 m まで続いているのか？
→数百 m の深さまであるところもあり、シベリアでは 1000 m に達するところもある。

○連続的永久凍土と不連続的永久凍土の違いは何か？
→分布の連続性から両者は分類されるが、連続的永久凍土の方がより寒冷な地域にある。

○ミランコビッチは天文学を用いて計算したということだが、ミランコビッチ自身は 100 年も生きていないのにどうして 10 万年周期の計算ができたのか？過去のデータがなければ計算できないのではないか？
→天体の運行は、過去のデータがなくても将来の予測をすることができる。モデルが不完全で、経験で補う必要があるものについては、過去のデータの多寡によって精度が変わるが（たとえば地震の発生確率など）、天体の運行にはきわめて精度の高いモデルがあるので、過去のデータとは無関係である。

□ポドゾルとツンドラ土との違いは何か？
→ポドゾルとは、鉄やアルミニウムが溶脱された白色の層とそれらが集積した層からなる土壌で、タイガの下でよく発達するが、温帯でも、場合によっては熱帯でも見られる。ツンドラ土は永久凍土地帯に見られる蘚苔類の遺体を母材とする泥炭土の一種である。

□なぜシベリアの端のようなところのグーグルアースの画像がきれいに写っているのか？
→なぜ、シベリアの端にきれいな画像があると不思議なのか？

□なぜ間違った情報が載った資料集が出版され続けているの

か？
→正確な情報を収集するのは時間も労力もお金もかかるからではないか。

□なぜ偉人は亡くなってから評価されるのか？
→必ずしも亡くなってから評価されている人ばかりではない。亡くなってからでも評価されるのが偉人の業績ではないか。

□ミランコビッチやメンデルなど、後々に注目されてすごいとなることがあるが、どのように再注目されるのか？
→科学は過去の研究の上に成り立っているので、過去の研究は常に参照されている。このため、ちゃんとした論文の形で出版されていれば、誰かがその価値に気付く。

□チェンジングブルーの中身はどのようなものか？
→同位体などによる古環境復元の方法や気候変動の仕組みについて、それらの開発史、研究史から最新の動向まで物語風に描かれている。